

『私達は2020年を目指して、SEKISUI OPENのスポンサーを続けます。』

イゴール・アリンクス

SEKISUI ALVEO AG 取締役社長 (CEO)



スイス、クリエンスで毎年開かれているSEKISUI OPENは、私たちになじみの深い日本の積水化学工業株式会社（以下、積水化学）とヨーロッパのグループ会社がスポンサーとなって開催されています。数年前からこの大会の名前が目に止まり、大会サイトを覗いてみると、2020年のオリンピック入りも応援してくれている。この大会にはどんな背景があるのか、どんな人々が運営をしているのか気になる。是非伺ってみようと、日本の積水化学の広報の方のご尽力を頂き、大会スポンサー幹事会社、SEKISUI ALVEOのCEOイゴール・アリンクス氏にインタビューを申し込んでみました。

(公社) 日本スカッシュ協会 広報

\*\*\*\*\*

まず始めに、(公社) 日本スカッシュ協会のインタビューをご快諾頂き有難うございました。そしてSEKISUI OPEN 3年目の開催をお祝い申し上げます。スカッシュ協会としても、スカッシュプロツアーのファンとしても、日本企業の名前がついたトーナメントが、国際大会のツアーカレンダーにある事はとても嬉しい事なのですが、

① どうして、この大会が生まれたか教えてくださいませんか？

まず、何故この大会が誕生したかという点、積水化学グループは、ヨーロッパに30社を超えるグループ会社があり、それぞれが異なる事業を営んでいます。5年前、私たちは、各社の事業の枠を超えて、新たに共同で始められる事はないかと模索していました。その時、グループ全社に共通する事は、CSR（企業の社会的責任）という理念と、SEKISUIというブランドだったのです。

私たちは、CSRとして、環境問題に活発に取り組み、子供を対象にしたイベントを開催したり、生物多様性の調査と製品の開発を進めて環境保全に広く貢献して来ました。

ブランドの面では、まず社員にとって勤めている会社が良い企業であり、また誇りに出来る企業であること、対外的には、我々ヨーロッパ各社が積水化学グループの一員であることを強調したいという意見がまとまりました。

そして私がスイス・スカッシュ連盟とのつながりがある事に着目し（質問7に理由を述べています）、出来る範囲の資金で、社名を冠にした国際大会を開く事を思いついたのです。出来る範囲の資金と言いましたが、テニスやサッカー、ゴルフなどに必要な、何百万ドルといった大会資金は自分たちの考える規模ではありません。



SEKISUIオープンの予算は、US12,000ドル。（10,000ドルが賞金、2000ドルが運営費）そして、2016年と2020年のオリンピック年には、これを倍にしたい。そして2013年から2020年で合計122,000ドルで可能ではないか。私は一緒に協賛する他のヨーロッパ各社と日本の本社にそう提案しました。そして全員が、スカッシュは、

—極めて健康的なスポーツ（フォーブス誌に世界で最も健康的なスポーツと記述された事は有名）として人々の健康を促進し、

—賞金総額10,000ドルに、10から15カ国の選手が集う点でもグローバル企業のSEKISUIの名にふさわしく

—2020年への希望がまだ残っている中、オリンピックに新競技として採用された暁には、この競技の古くからのサポーターとして、積水化学グループは注目される可能性を秘めており、高いコストパフォーマンスで、企業の評価を上げる事ができる。

などの理由で同意をしてくれたのです。

次に、どうやって大会を誕生させたかという、私はスイスのジュニア育成で最大のスカッシュクラブがある街に住んでいるのです。そのため大会運営を引き受けてくれそうな人々とコンタクトを取る事が可能でした。スタッフと知り合いで、クラブは自宅からほんの10分ほどで、非常に容易に運営が管理できるという条件がそろっていました。そして、スイススカッシュ連盟と話し合い（連盟にも何人か知り合いがいるのです。スカッシュ界は狭いですからね。）日程決めなどでは、私たちの大会と同時に他の大会に日程が重ならないよう協力してもらい、オーガナイザーには、運営の殆ど全ての事を任せています。我々は、SEKISUIのロゴをコートや会場用に提供し、フェイスブックを管理しています。

# SEKISUI



<https://www.facebook.com/SekisuiOpen>

②大会を運営しているのはどんな方々なのですか？

トーナメントオーガナイザーは、パスカル・ブルーイン率いるスカッシュフェスティバルアソシエーションです。彼らは地元のクラブトレーナーや、ジュニアのアンダー19と17カテゴリーのナショナルトレーナー達です。その他は、私が余暇を使って関わっている以外に、SEKISUIから大会運営に参加している人はいません。

③大会開催をされていて1番いいと思うことは何ですか？

素晴らしい競技を応援できる事。そして更に活動を広げる可能性を持つ事が出来る事です。

④難しい事はありますか？

ありません。

⑤大会は平日から始まりますが、試合はどのくらい観ますか？

私の出張や会議のスケジュールにもよりますね。例えば、今年は予選ラウンドは全く観れませんが、決勝ラウンドに入ってから、準決勝、決勝を含め6試合観戦しました。

⑥今までで印象に残った対戦などありますか？

そうですね、賞金総額は1万USドル（約120万円）となると、だいたい世界ランキング50～60位か、そのあたりの選手が集まります。今年は100位以内の選手は7名。本当に世界のトップ10プレーヤーを集めようとする、5万USドル（約600万円）は必要です。その為、私たちの大会は上位選手のためのものではありませんが、素晴らしい対戦はいくつもあります。

昨年の決勝戦、モハメド・アボエルガーvsアリ・アンワー・レダの二人のエジプトプレイヤーによる対戦は感動的な素晴らしい試合でした。

この試合には、積水化学の取締役である久保氏も日本から観戦に訪れました。



⑦ご自身もスカッシュはされますか？

私は、スカッシュはしません。しかし私の16歳になる息子は5年前から、13歳になる娘は2年前からスカッシュをしています。

息子は今、ヨーロッパではU17で2位、娘はU15に上がったばかりですが4位です。子供を通して地元クラブのコーチと知り合いになり、その後スイスのスカッシュ連盟と繋がり、SEKISUIオープンの開催を思いついたのです。

私自身のスカッシュライフは、基本的に子供を大会に連れて行き、応援する。そんなところ です。

⑧スカッシュの魅力とはなんだと思いますか？

スカッシュプレイヤーを観ていると、体の強靭さ、動きの速さ、そしてチェスの様な先を読む頭脳プレイ、その全てが魅力だと思います。

そして180カ国以上の国々で普及している為、様々な国からプロプレイヤーが生まれていて、多くの国々がプロ大会を開催している。そんな要素も魅力の1つです。そんな中、ほぼ全てのプレイヤーが、フェアなスポーツマンシップを実践していて、それはオフコートの振る舞いからも伺えます。それも私がスカッシュを楽しめる理由の1つです。

⑨どんなプレースタイルが好きですか？好きなプレーヤーはいますか？

攻撃型のプレースタイルが好きです。コート前方をつかったボレー、ニック、キルショットなど。ラミー・アショア（エジプト人プレーヤー\*世界チャンピオン）のプレーを観るのが一番好きです。私の息子も同じプレースタイルです。

⑩積水化学グループの社員はスカッシュ好きが多いのですか？

スイスではそれほどではないですが、イギリス、ドイツ、オランダでは多いですね。これは私の会社SEKISUI ALVEOに限っての話ですが、。

⑪私たちは、現在、まず2020東京オリンピック委員会が6月22日に決定する東京オリンピックの新競技候補のショートリストに選ばれ、最終的にオリンピック種目となる事を目指して、活発にスカッシュの普及活動と、選手強化活動をしています。

2020年東京オリンピックにスカッシュは選ばれると思いますか？

もし野球が候補でなかったら、スカッシュのチャンスは非常に高いと思っています。しかし、野球は日本で人気の高い競技なので、組織委員会が野球を選ぶかもしれません。従ってスカッシュにとって重要なのは追加種目が2種目以上になる事でしょう。



⑫スカッシュがオリンピック競技になったら、スカッシュコミュニティはどう変わると思いますか？

質問1でもお答えしましたように、スカッシュがオリンピックに採用されたら、この競技に対して先見の明を持って早くから支援してきた企業としてアピールができますね。

⑬スカッシュがオリンピックにふさわしい競技だと思われる理由を挙げて下さい。

疑う余地もなく、スカッシュはオリンピック種目に選ばれるべきだと思っています。スカッシュはオリンピックの求める要素の全てを満たし、資金運用、ドーピングをみても、非常にフェアでクリーンで、最も健康的なスポーツなのであります。

⑭スカッシュは2013年ブエノスアイレスでは、残念な結果となりましたが、今また、これまで以上にオリンピックが近くなっていると日本でも感じています。私達に応援メッセージを頂けますか？

オリンピックの価値感の全てに沿った競技として、スカッシュは、オリンピック競技にふさわしいスポーツです。スカッシュがオリンピック競技になれば、アメリカ、ロシア、中国にメダルが独占される競技とは異なり、これまでメダルの獲得の機会がなかった国々

(エジプト、マレーシア、コロンビア、インドネシア、パキスタン、インドなど)にも、新しいメダルの可能性が生まれ、さらに世界全体での発展と普及が特に若者の間で望めるでしょう。

お話を聞かせて頂き、本当に有難う御座いました。これからも素晴らしいアスリート達の大会の開催とスカッシュを楽しんで下さい。 平成27年6月吉日



#### SEKISUI OPEN 共同スポンサー(2013～2020)

- 1) SEKISUI ALVEO AG
- 2) SEKISUI CHEMICAL, G.m.b.H.
- 3) SEKISUI S-LEC B.V.
- 4) SEKISUI SPECIALTY CHEMICALS EUROPE, S.L
- 5) SEKISUI DIAGNOSTICS(UK)LIMITED
- 6) SEKISUI DIAGNOSTICS G.m.b.H
- 7) SEKISUI VIROTECH G.m.b.H
- 8) SEKISUI SPR EUROPE, G.m.b.H
- 9) SEKISUI ESLON B.V

その他 参照サイト <http://www.squashsite.co.uk/sekisui/index.htm>